

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

集まれば元気 語り合えば勇気

みんなで力を合わせて要求実現 働きやすい職場環境に

22年度大障教女性部総会

7月2日、大阪府教育会館で女性部総会が開催されました。この2年間は感染症対策で大人数で集まるのが難しく、正式な総会として開催できていませんでしたが、今年は会場とオンラインの併用で行うことができました。定足数を上回る参加があり、総会は成立しました。

多彩で豊かな職場活動を交流

前田女性部長はいいさつの中で、ロシアのウクライナ侵略により世界中に「力には力」といった動きが強まっていることに触れ、「平和と民主的な教育を守っていくことが今こそ大切」と強調しました。経過報告、運動の柱、スローガン、当面のとりくみ、予算案の提案がされ、討論が行われました。



あいさつする前田女性部長

各分会では、分会集会をする、お菓子を配る、共済カフェを開催するなど、多忙な中でも工夫して活動が行われています。その中で新規加入された若い方から「仲間がいて話し合えるのがうれしい」とい

病弱支援学校の分会からは、5つの分教室が離れているが、ZOOMでつながることができたこと、児童生徒数が減少しているが大阪府が責任をもって病弱教育を守ってほしいという要望がありました。視覚支援学校の分会からは、栄養教諭の3校勤務による過重労働の問題とともに、全国寄宿舎交流集会の紹介があり、寄宿舎教育について知ってほしいと

多くの分会から共通して出された問題として、代替講師が配置されない「穴あき」問題があります。職場に若い方が増えて妊娠・出産される方が多いなか、妊娠中の軽減講師が迅速に配置されない、産休代替講師が決まるのが遅く安心して産前休暇に入ることができない、病休代替などの講師が配置されない、「穴あき」が昨年度一つの学校で同時に5人もあった、代替講師が見つからないため非常勤講師で授業時間だけをカバーし、授業以外の業務で周りの教職員の負担が増加しているのに、管理職が「仕方がない」で済ましている、代替の非常勤講師の方の教科が本務者の教科と違うため、専門の教科指導ができず子ども

話されました。各分会で困っていることでは、児童生徒数の増加のための教室不足、校舎の老朽化、管理職のパワハラ、服喪休暇の日数が実態に合わず少ないこと、再任用の給与水準が低さを実感し定年引上げ後はどうなるのか不安を感じることなどが話されました。なかでも最大の困難は「職場の人員不足」でした。

代替講師が配置されない「穴あき」深刻

臨対部からは、「講師の先生の権利も一緒に考え、みんなが成長していけるように手を携えていきましょう」と発言がありました。最後に退任される女性部役員の大西恭子さん、横山公美さんからあいさつがありました。お二人とも市障教・大障教と長く組合に貢献されました。女性部では、今後もオンラインを併用しながら委員会や総会を開き、一人ひとりの声を大切にしていきます。

教室不足解消、人員増の実現、勤務条件改善、大阪の障害児教育を発展させよう

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



書記局の

2022年7月

原水爆禁止世界大会が今年、3年ぶりに広島・長崎の2つの被爆地で開催されます。筆者は何度も世界大会に参加し、夏の被爆地を訪れました。世界大会初参加は、1995年の被爆50周年の年でした。この年、世界大会に参加する大阪代表団は列車を貸し切って広島に向かったと記憶しています。

広島では、原爆碑めぐりに参加し、被爆の悲惨さに大きな衝撃を受けました。平和公園内に原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑があります。その碑には、被爆歌人・正田篠枝さんの「太き骨は先生ならむ そのそばに ちいさきあたまの骨 あつまれり」という短歌が刻まれています。碑の前に立ち、悲しみと怒りの涙を抑えることができませんでした。

核兵器廃絶という被爆者と原水爆禁止運動の悲願実現に向け、国際社会は大きな一歩を踏み出しました。核兵器禁止条約が2021年1月22日に発効し、今年6月には第1回締約国会議がウィーンで開催されました。会議は「核兵器のない世界」に向けた力強いメッセージを全世界に発信しました。会議には、締約国65カ国と共に34カ国がオブザーバーとして参加し、その中にはドイツなどアメリカの同盟国も含まれています。驚くことに唯一の戦争被爆国である日本はオブザーバー参加すらしていませんでした。日本政府は核抑止力論(核兵器に依存して自国の安全を守る)という時代遅れの呪縛から脱して、条約への参加を決意するべきです。今年の世界大会に大障教から8名の若い組合員が参加すると聞き勇気付けられています。「平和」は教職員組合運動の原点の一つ。みんなで声を上げ続けましょう。ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、ノーモアヒバクシャ。(S)

「学校が卒業生たちの母港。教員は母港を作る大工」



ろう学校ブロック新歓学習会

6月19日(日)、高津ガーデンにてろう学校ブロックの新歓任
歓迎学習会があり、府下四つの全ろう学校から会場12名、オン
ライン4名が参加しました。

最初に兵庫教育大学の中島武史
さんから、「ろう教育の魅力・や
りがい・意義」というテーマでお
話していただきました。中島さ
んは、市立聾学校の時代から中央
聴覚支援学校で中学部に長く勤め
られ、その後の3月までだいでせ
ん聴覚高等支援学校で英語科教員
として勤務されていた方です。ご
自身の手話やろうあ者との関わり
にも触れつつ、ろう学校で教える
魅力から日本社会におけるろう学
校の今日的意義まで、幅広く深い
視点からのお話には、参加者一同引
き込まれました。



ろう学校の魅力を語る中島さんと
熱心に聞き入る参加者

また、中高の多感な生徒たちと、
学校間での交流会になりました。

ろう学校の意義という面からも今
の学校現場が抱える問題を掘り
下げようと、各学校から報告があ
りました。他校への質問なども出
され、充実した情報交換の場とな
りました。

感想では「中島さんのお話を聞
けてよかった。ぜひ多くのほかの
先生方にも聞いてもらいたい。」
という声が多く寄せられました。
コロナ禍以降、ろう学校4校で交
流する機会もなかなか持てずにい
ましたが、久しぶりに顔を合わせ
て充実した学習会となりました。

大障教定期大会 発言ダイジェスト(その4)

憲法は権力者を縛るものであり、私たち一般市民の人権を守るもの

泉南支援学校分会 奥野代議員



ロシアのウクライナ侵略は、
国連憲章からみても、また普
通の国際感覚から考えても到
底許されるものではありません。
しかしロシアの一方的

な侵略は一向に終わる方向が
みえません。紛争が長引けば、
長引くほど当然のことながら、
犠牲者は増えます。民間人も
軍人も亡くなつてはいけない
のです。戦争という、人と人
との殺し合いはしてはいけな
いのです。

今の日本はどうでしょうか。
自民党は相手国を先制攻撃で
きるようにしようとしたり、
維新の会は「核保有」を進め
ようとしたり、力対力の論理
にのめり込んでいこうとして
います。これを機に、日本国
憲法の戦争放棄を誓った第九
条を目的に、憲法改
悪に突き進もうとしています。
大手マスコミも、憲法改悪を
押し進める方向に世論を誘導

する報道をしています。しか
し決してあきらめることなく、
「教子子を戦場に送らない」
ため、いまががんばりどきで
す。憲法は権力者を縛るもの
であり、私たち一般市民の人
権を守るものです。このこと
を、広く伝え、日本国憲法が
本当に意味で国民生活に活か
せるように奮闘します。

寄宿舎での実践を多くの方に知ってもらいたい

寄宿舎教育部 白木代議員

寄宿舎の現状について、中
央聴覚の舎食が民間委託され
る動きや、寄宿舎設置3校の
舎食の栄養教員配置について、
1校は週29時間の非常勤、
あとの2校は常勤の臨時技師
に掛け持ちさせるなど、現場
教職員に多大な負担を強いて
います。また、寄宿舎教員は
毎年のように定年退職があり
ながら採用選考を実施せず、

臨時的任用の比率が5割の寄
宿舎があります。専門部交渉
で実態を訴えても理解されて
いないといった感触があり
ません。寄宿舎のことをいろ
んな人に知ってもらうことが、
運動の発展につながると考え
ています。

今年7月30・31日に大
阪で全国寄宿舎学習交流集会
を開催します。寄宿舎での居

場所づくりなどの実践を多く
の方に知ってもらいたいとい
うことから、テーマを「めつ
ちやええやん ええと」見っ
け うちの味方大集合」と
しました。記念講演の落語家
の桂福点さんをはじめ、4講
座、4分科会を設定し、様々
な観点から、居場所づくりに
奮闘している寄宿舎での実態
を知ってもらえるように集会

